

令和5年度松山東高校全日制入学式式辞（令和5年4月10日）

本日、この佳き日に、多くの御来賓の皆様の御臨席を賜り、令和5年度愛媛県立松山東高等学校の入学式を挙げることは、私たち教職員にとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました、360名の新入生の皆さん、おめでとうございます。皆さんは、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた中学生生活を、前向きに乗り切って、本校に入学されました。皆さんを、心から歓迎いたします。

また、保護者の皆様、本日は、お子様の晴れの姿に、喜びと頼もしさを感じておられることと存じます。お子様への深い愛情と、これまでのお導きに、深く敬意を表しますとともに、お子様の御入学を、心からお祝い申し上げます。

本校は、松山中学校創立から145年、その前身の松山藩藩校「明教館」設立から数えると、195年の歴史と伝統がある学校です。その間、多くの先輩方が、各方面で偉大な足跡を残しておられます。

その中のお一人、安倍能成氏の胸像が、正門近くにあります。安倍氏は、本校を卒業後、今の東京大学に進み、のちに文部大臣となった教育者であり、哲学者です。安倍氏は、いつも「私の母校松山中学では…」と、本校の出身であることを誇りにしておられたと伺っています。

また、今年、88歳でお亡くなりになったノーベル文学賞の作家、大江健三郎さんも、松山東高校で学ばれたお一人です。大江さんは、その著書『「自分の木」の下で』の中で、御自身のお子さん、光さんの姿を通して、子どもが学校に行く理由は、「自分の心の中にある深く豊かなものを確かめ、他の人に伝え、そして、自分が社会につながっていくための、いちばん役に立つ言葉」を習うためだと、述べておられます。光さんにとっては、その言葉は、音楽でした。大江さんは、続けて、「理科も算数も、体操も音楽も、自分をしっかり理解し、他の人たちとつながってゆくための言葉」なのだと、述べておられます。

皆さんも、松山東高校での、かけがえのない出会いと経験を通して、自分をしっかり理解する言葉、他の人たちとつながる言葉を身に付け、社会へと羽ばたいて行ってほしい、そう願っています。

松山東高校は、学習や部活動、特色ある学校行事など、学校生活全体を通して、人を思いやる心や、挑戦する力、継続する力といった、豊かな人間性を身に付けることができる学校で、既に、2、3年生たちが、その姿を見せてくれています。

そこで、本日入学された皆さんに、二つのお願いをします。

一つ目は、自分が「どんな成長をしたいか」という目標を掲げてほしい、ということです。夢や目標は大きくてよい。3月に、世界一となったWBCの選手たちも、世界一という目標を掲げ、日常生活から、人には見えない努力を積み重ねて、苦しい道のりを乗り越えていきました。皆さんが思い描く将来の目標はどのようなことでしょうか。そして、それに挑戦し、努力する、しっかりと成長しようとする皆さんを、私たちは支えていきます。

二つ目は、豊かな人間性を身に付けてほしい、ということです。今日から、新しい環境、新しい人間関係の中で学校生活を送ることになります。いくつかの場面では、意見が食い違うこともある、そんなとき、その意見を排除するのではなく、他者感覚を持って、他者を慮りながら、皆が納得できる答えを見つけてほしい、その努力を通して、豊かな人間性を持った、信頼される人間になるのです。

保護者の皆様、私たち教職員一同は、本日からお子様をお預かりし、お子様が、それぞれの目標を持ち、それを実現するに足る力を備え、そして、高く、広く、豊かな人間性を兼ね備えた人物に育ち、現代社会をたくましく生き抜く力を身に付けられるよう、努めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、PTA・同窓会の皆様、引き続き、本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さん一人一人が、この松山東高校で、新しい友人、よい先輩や先生方との出会いに恵まれ、高く、広く、そして豊かに成長されることを期待して、式辞といたします。

令和5年4月10日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史